矢作川流域圏懇談会通信

R7 市民部会編 vol.2

発　行　日：令和７年 11 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第７回市民部会まとめの会を開催しました！

　第７回市民部会まとめの会では、第 15 期の振り返りと第 16 期の活動目標について話し合いました。また、公開講座に関する情報共有・意見交換を行いました。

日　　時：令和７年 10 月 16 日（木）10:00～12:00
会議場所：豊田市崇化館交流館　第２研究室
参 加 者：14 名　＊事務局含む

◆主な会議内容

１．第 15 期の振り返り

　第 15 期の活動として下記に示す①、②を報告しました。

①「食と農業」に関する公開講座について意見交換
　第 20 回市民部会 WG にて、農業の現状と環境問題との関連を踏まえた様々な課題、食の安全性、地域活性化などを市民が「自分ごと」としてとらえるきっかけとなるテーマについて意見交換を行いました。

②「新たなつながり」を広げる
　例年から参加している矢作川感謝祭、中部のいい川ワークショップ、三河湾大感謝祭、いい川・いい川づくりワークショップに加えて、今期は「川の日」ワークショップ関東大会、循環フェス名古屋、いなかとまちの文化祭に参加し、流域内外で新たなつながりを広げました。
　また、三河湾大感謝祭では、海部会と協働で参加し、「海の現状・課題」に関する漁業関係者へのインタビュー動画の上映やステージ上で懇談会の取り組みについて紹介しました。

2．第 16 期の活動目標

　流域連携をテーマに３つの活動目標【流域への情報発信】、【地域部会と連携】、【新たなつながり】を設定しました。

◆テーマ①流域への情報発信
- 食と農業に関する情報共有や活動を目的としたチームを作成し、その内容を WG で情報共有・意見交換する。
- 公開講座として流域市民の方への発信も検討する。

◆テーマ②地域部会と連携
- 矢作川流域圏懇談会の活動や矢作川流域の課題を流域市民の方に発信していくために地域部会と連携して「農業」、「海の現状・課題」「農業、海、森林、里山等の現状・課題」をテーマとしたイベントを企画し、開催する。

◆テーマ③新たなつながり
- 矢作川流域圏懇談会のネットワークを活用して流域内外で新たなつながりを広げる。
- 流域圏懇談会の活動と関連する団体・個人への訪問・招待やイベント参加などを引き続き行っていく。（矢作川感謝祭・三河湾大感謝祭等）
- 流域内の外部団体と連携を強化していき、流域のことを知っていただく場を設けて大学や市民の方も巻き込んでいく。

3．公開講座に関する情報共有・意見交換

　前回の WG で出された意見を振り返りつつ、沖氏から岡崎市の有機農業について情報を提供していただきました。その後、公開講座の内容や時期などについて意見交換を行いました。
　意見交換の中で、学校給食での地産地消や環境問題への取り組み、若者の巻き込み方、障害者の就労支援など多様な視点が提案されました。また、岡崎市のオーガニックビレッジ宣言の取り組みを参考に、自治体の積極的な関与が重要であると意見がありました。
　開催時期については、来年度の開催を目標として、関係者へのヒアリングやインタビューを実施するとともに、まずは講演者の選定に取り組むことで一致しました。

◆話し合いでの主な意見（・意見　➢回答）

●第 15 期の振り返りと第 16 期の活動目標

- 青木先生や鈴木先生の解説動画がとてもわかりやすい。もっと広く伝える方法はないか。（鈴木）
  - ➢ YouTube で配信し、そのリンク先を HP でアップロードする予定である。（事務局補佐）
- 海苔とアサリの栄養塩の違いについて知る必要がある。窒素とリンだけでなく、シリカの供給も重要であることも知ってもらう必要がある。（井上）
- 環境問題を扱うため、地元大学との連携が重要である。（井上）
- 山の整備と木材利用について、自治体間の情報共有や地域部会との連携が必要である。（山本）
- 市民部会は地域部会同士のつながりを強める役割であるため、情報共有を積極的に行っていくべきである。（光岡）
- 山里の集落が急速に消滅している現状があり、森林保全のために地域の営みを維持することが重要である。地域の森林を都市部の人々との交流を通じて維持・保全・活用する方法を考える必要がある。（山本）
- 木材を「材料」として利用して寿命が尽きたら「燃料」として活用するサイクルができるのが良い。（戸田）
  - ➢ 市民部会として、山間部に住んでいない方々にも情報を共有することは重要な意義がある。（事務局）
- 流域の資源管理は重要であり、森林の価値と役割、市民の関わり方について普及啓発することが市民部会の役割だと思う。（松沢）
- 市民への情報発信は重要であり、課題を明確に伝えながら地域部会と連携して進めていく必要がある。「食と農業」だけを位置づけるのに違和感がある。テーマを「流域への情報発信」とし、活動目標の中に「食と農業」や他の部会のテーマを公開講座として入れた方が良い。（光岡）
  - ➢ 座長と事務局側で調整して、全体会議で共有する。（事務局補佐）

●公開講座に関する意見交換

- 前回 WG では、農業と水循環、自然との関わりなどをテーマに議論した。また、学校給食での地産地消や環境問題への取り組み、若者の巻き込み方、障害者の就労支援など多様な視点が提案された。（事務局補佐）
- 岡崎市のオーガニック都市宣言の取り組みを参考にすると、自治体の積極的な関与が重要と考える。（沖）
- 有機農業は環境だけでなく健康にも関係していると考えるが、因果関係がわかりにくいこともあり、後援申請では健康面での言及は難しい状況である。（藤永）
- 食料自給率が低く、危機的状況である。次世代のための食の安全確保の手段として有機農業の重要性を公開講座の場で訴える必要がある。（松沢）
- 矢作川上流では山地酪農など様々な取り組みが実施されているため、公開講座では実例を挙げてアピールできるのではないか。（沖）
- 今までの公開講座では、ネオニコチノイドやマイクロプラスチックなどの環境問題が、人間の健康問題にも間接的に関わっていることを取り上げてきた。（沖）
- 放棄地を活用した市民参加型の農業が未来志向的な取り組みとして注目されている。（藤永）
- 前回 WG で議題となった農福連携をうまく組み合わせられたら良いと思う。（沖）
- 大手企業が特定雇用の形態で農業に従事するケースもある。（山本）
- 流域に住んでいる方々に流域のことを考えてもらう仕組みを作るには、学校給食において有機農産物を利用するのはとても実践的で効果的である。実情を共有するためにも、有機農産物を使用する意義を給食現場や保護者に説明しているかが重要である。（戸田）
- 公開講座の時期はいつを想定するか。（鈴木）
  - ➢ 年度内に行うのであれば、12 月ぐらいに内容を固めて 2 月に開催と想定される。来年度であれば、もう少し内容を詰める時間がある。（事務局）
  - ➢ 学識経験者や農業従事者などの関係者にヒアリングやインタビューを行いたいと考えているため、2 月開催は難しい。流域全体に対して俯瞰的目線で何が問題なのかを発信していきたいと考えている。（松沢）
  - ➢ 流域全体を俯瞰してみたときに、農業が果たしている役割についても議論したい。（山本）
  - ➢ 大まかなスケジュールやインタビューの段取りを今後調整する。（事務局補佐）

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会　事務局

〒441-8149　愛知県豊橋市中野町字平西 1-6　国土交通省 豊橋河川事務所　流域治水課

TEL 0532(48)8107

＊矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課（cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp）までお送りください。